

令和3年度 宮崎県学校体育研究発表大会都城・三股大会 研究計画

1 宮崎県の研究主題

生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを
実現するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習
～主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業の創造と展開～

2 宮崎県部会別研究主題

○ 小学校部会主題

生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための
資質・能力の基礎を育む体育科学習の在り方
～主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業の創造と展開～

○ 中学校部会主題

生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための
資質・能力を育む保健体育科学習の在り方
～主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業の創造と展開～

○ 高等学校部会主題

生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを継続するための
資質・能力を育む保健体育科学習の在り方
～主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業の創造と展開～

○ 特別支援教育部会主題

生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための
資質・能力を育む体育科・保健体育科学習の在り方
～主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業の創造と展開～

3 主題の設定理由

(1) 新学習指導要領の趣旨

今回の改訂の基本的な考え方として、『①子供たちに求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、連携する「社会に開かれた教育課程」を重視する』『②知識の理解の質を更に高め、確かな学力を育成すること』『③体育・健康に関する指導の充実により、健やかな体を育成すること』などが挙げられる。

(2) 宮崎県の児童生徒の実態

令和元年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査では、小学校5年生男女、中学校2年生男女の体力合計点はそれぞれ全国平均を上回ったが、前年度に比べてすべての学年で低下する結果となった。特に、小学校5年生男子の落ち込みが大きく、種目別に見るとこれまでの課題であった「握力」、「ボール投げ」に加え、「シャトルラン」の低下が顕著であった。しかし、小学校5年生及び中学校2年生の男女ともに運動やスポーツが「好き」、「大好き」という愛好度の高さはこれまでに引き続き全国上位であった。

(3) 宮崎県学校体育研究会が進める研究

本県では、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校における12年間の体育科・保健体育科学習を通して、学習内容の確実な定着を目指し、校種の接続及び発達の段階に応じた指導方法・評価の工夫を行い、豊かなスポーツライフの実現に向けた児童生徒を育てるための具体的な実践を行っている。そこで、令和3年度と令和4年度の2年間は、「球技ゴール型」の研究を深め、小中高特における「つながりのある学習」の一層の充実を図ることを目指す。

『つながりのある学習』における、「つながり」は、単に教材や領域種目を揃えることによるつながりではなく、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の12年間を見通し、発達の段階に応じて系統化・明確化された学習内容を、「どのように学ばせるのか」について学校段階等間の接続の中で計画的、かつ継続的に行うことにより、学習内容の定着を図っていくことを目的としている。

(4) 研究を進めるにあたって

本県学校体育研究会においては、育成を目指す資質・能力の明確化、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進、体育科・保健体育科学習におけるカリキュラム・マネジメントの推進の3つを研究の基本方針とした。さらに、この3つを念頭に置き、体育科・保健体育科学習において、カリキュラム・マネジメントや指導方法の工夫を行い、主体的・対話的で深い学びを実現する授業を展開できれば、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することができるのではないかと考え、本主題を設定した。

4 研究の概要（研究構想図）

生きる力

たくましいからだ 豊かな心 すぐれた知性

めざす児童生徒像

『 未来を切り拓く 心豊かでたくましい 宮崎の児童生徒 』

研究の基本方針

- 育成を目指す資質・能力の明確化
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進
- 体育科・保健体育科学習におけるカリキュラム・マネジメントの推進

研究主題

生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習
～主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業の創造と展開～

- 小学校部会主題：生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の基礎を育む体育科の在り方
- 中学校部会主題：生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育む保健体育科学習の在り方
- 高等学校部会主題：生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育む保健体育科学習の在り方
- 特別支援教育部会主題：生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習の在り方

研究の仮説

体育科・保健体育科学習において、カリキュラム・マネジメントや指導方法の工夫を行い、主体的・対話的で深い学びを実現する授業を展開できれば、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することができるであろう。

研究の内容

『主体的・対話的で深い学びを実現する授業の在り方』

(1)カリキュラム・マネジメントの工夫

- 球技などにおける、12年間を見通した「指導と評価の計画」の作成

(2)指導方法の工夫

- 球技などにおける、児童生徒の姿に対する手立ての一体化表の作成及び活用

5 研究の内容

【研究の方向性の整理】

本県では、令和3年度と令和4年度の2年間は、「球技ゴール型」の研究を深め、小中高特における「つながりのある学習」の一層の充実を図ることを目指している。

新学習指導要領において、体育の見方・考え方として、生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現・継続する観点を踏まえ、「運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること」としている。また、中教審答申（平成28年12月21日）では「今回の改訂が目指すのは、学習の内容と方法の両方を重視し、子供の学びの過程を質的に高めていくことである。単元や題材のまとまりの中で、子供たちが『何ができるようになるか』を明確にしなが、『何を学ぶか』という学習内容と、『どのように学ぶか』という学びの過程を組み立てていくことが重要になる。」とも述べられている。

そこで、本県では、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校における12年間の体育科・保健体育科学習を通して、学習内容の確実な定着を目指し、校種の接続及び発達の段階に応じた指導方法・評価の工夫を行い、豊かなスポーツライフの実現に向けた児童生徒を育てるための具体的な実践を行っている。今年度は、「球技ゴール型」の研究の1年目に当たる。そこで、主体的・対話的で深い学びにつなげる研究を行うために、以下の2点に整理して研究を進めた。

(1) カリキュラム・マネジメントの工夫

- 球技などにおける、12年間を見通した「指導と評価の計画」の作成

(2) 指導方法の工夫

- 球技などにおける、児童生徒の姿に対する手立ての一体化表の作成及び活用

(1) カリキュラム・マネジメントの工夫

- 球技などにおける、12年間を見通した「指導と評価の計画」の作成

12年間を見通して、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校のそれぞれの体連で球技（小学校はラグビー、中学校・高等学校・特別支援学校はバスケットボール）における指導と評価の計画を作成した。カード等を用いて行い、指導内容の順番や評価のタイミング等を検討しながら指導と評価の計画を作成した。

【研究内容と研究の方向性を整理した一覧】

研究内容及び研究の方向性と授業の視点

研究の内容(現時点案)

『主体的・対話的で深い学びを実現する授業の在り方』

(1) カリキュラム・マネジメントの工夫

○ 球技などにおける、12年間を見通した「指導と評価の計画」の作成

(2) 指導方法の工夫

○ 球技などにおける、児童生徒の姿に対する手立ての一体化表の作成及び活用

| | 該当学年と主な活動内容 | カリ・マネの視点 | 資料活用の視点 |
|--------|---------------------------------------|---|----------------------------|
| 小学校 | 【第4学年】(6/8時間目) ○ゴール型ゲーム(タグラグビー) | ○カリキュラム・マネジメントの視点に立った12年間を見通した「指導と評価の計画」の作成 | ○児童の姿に対する手立ての一体化表の作成及び活用 |
| 中学校 | 【第2学年】(6/12時間目) ○ゴール型(バスケットボール) | ○カリキュラム・マネジメントの視点に立った指導と評価の計画の作成 | ○生徒の姿に対する手立ての一体化表の作成と活用 |
| 高等学校 | 【第1学年】(1~6/12時間目) ○ゴール型(バスケットボール) | ○カリキュラム・マネジメントの視点に立った指導と評価の計画の作成(評価規準の明確化) | ○生徒の姿に対する手立てに対する一体化表の作成と活用 |
| 特別支援学校 | 【高等部第2学年】(8/10)時間目 ○ゴール型(バスケットボール) | ○カリキュラム・マネジメントの視点に立った指導と評価の計画の作成 | ○各段階における、評価と手立ての一体化表の作成と活用 |

【小学校第4学年の指導と評価の計画】

☆児童の実態…

体験…
習得…
体力…

☆指導と評価の計画(全 時間:本時は第 時)

知…タグラグビーの行い方を知る
基本的なボール操作とボールを持たないときの動き
思…規則の工夫、ゲームの型に応じた簡単な作戦の選択
考えたことを友達に伝える
態…進んで・規則を守る・勝敗の受け入れ・考えを認める・安全

| 時間 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
|------|---|---|-------------------------|----------------------|--------------------|-----------------------------|---------------------------|----------------------------|
| 指導内容 | 知 | 行い方 鬼:相手(鬼)のいない場所に移動する 鬼:空いている場所を見付けて速く走る | 得点しやすい場所に移動する | | 近くにいるプレイヤーの方をパスを出す | | ボール保持者と自己の間に守備がいない位置に移動する | |
| | 思 | | ボールを持っている人の役割を踏まえた作戦を選ぶ | 得点の仕方を考え、規則を工夫する(選ぶ) | | ボールを持っていない人の役割を踏まえた作戦を考える | | ゲームで行った工夫を、動作や言葉、絵図で友達に伝える |
| | 態 | 周囲を見て場や用具の安全を確認める | 運動に進んで取り組む | 規則を守る | | 動きのよさを見せ合いながら、実際に、友達に考えを認める | 用具等の準備や片付けを、友達と一緒にする。 | |

鬼びんこい 走る→トライ。パス(ゲーム)→ゲームの反省から課題

【中学校第2学年の指導と評価の計画】

①
カエ
ーション

学校で行う球技は近代になって開発され、今日では、オリンピック・パラリンピック競技大会においても主要な競技として行われていること。

②
試みのゲーム

マナーを守ったり相手の健闘を認めたりして、フェアなプレイを守ろうとすること。

③
パス

パスやドリブルなどでボールをキープすること。

④
ドリブル

ゴール方向にドリブルし、位置を有利にする。

⑤
シュート

ゴールしやすい空間にいる味方にパスを出すこと。

⑥
課題発見

一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを認めようとする。

仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けること。

⑦
課題解決のための工夫実践

提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選ぶこと。

練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとする。

⑧
～

提示された動きのポイントやさまざまな事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えること。

⑩

ボールとゴールが同時に当たる場所に立つこと。

⑪
～
ゲーム:まとめ

対戦相手との競争において、技能のレベルに応じた作戦や戦術を選ぶことが有効であること。

⑫

練習やゲームの場面で、最善を尽くす、フェアなプレイなどのよい取組を見付け、理由を添えて他者に伝えること。

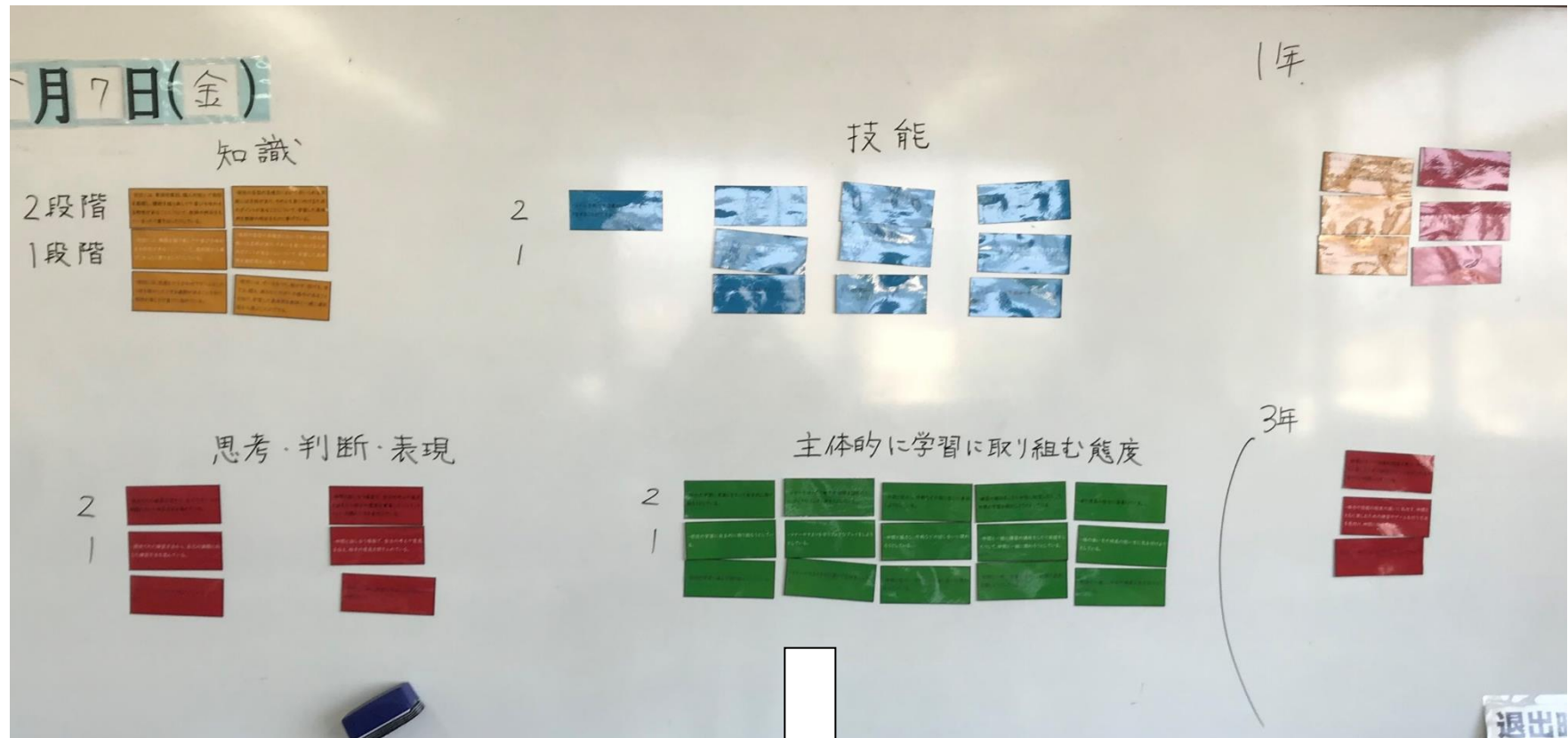
【高等学校第2学年の指導と評価の計画】

| 単元の学習計画及び評価計画 (高等学校第2学年 バasketボール) | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|------------------------------------|-----------------------|---|--------------------|-----------------------|--|------------------------------|
| 知 | | | | | ゲームに必要な技術と関連させた補助運動や部分練習を繰り返したり、継続して行ったりすることで、結果として体力を高めることができることを言ったり書き出ししたりしている。 | |
| 技 | | | | 味方が操作しやすいパスを送ることができる。 | | パスを出した後に次のパスを受ける動きをすることができる。 |
| 思 | | | 選択した運動や自己が取り組んでいる。 | | | |
| 学 | 球技の学習に自主的に取り組もうとしている。 | | | | | |

| 単元の学習計画及び評価計画 (高等学校第2学年 Basketボール) | | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
|------------------------------------|--|--------------------------|---------------------------------|---|--|---|
| 知 | | | | | | |
| 技 | | | | ボール保持者が進行できる空間を作りだすために、進行方向から離れることができる。 | | |
| 思 | | 作戦などについて話し合いに貢献しようとしている。 | 作戦などについて話し合いで見つけ、仲間へ伝えることをしている。 | | 選択した運動について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間へ伝えることをしている。 | |
| 学 | | | | | | 互いに練習相手になったり仲間へ助言したりして、互いに助け合い教え合おうとしている。 |

| 単元の学習計画及び評価計画 (高等学校第2学年 Basketボール) | | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
|------------------------------------|--|---|--|--|---|--|
| 知 | | 練習やゲーム中の技能を観察したり、分析したりするには、自己観察や他者観察などの方法があることを言ったり書き出ししたりしている。 | | | | |
| 技 | | | | ゴール前に広い空間を作りだすために、守備者を引きつけてゴールから離れることができる。 | | |
| 思 | | | ルールを守り競争したり勝敗を受け入れたりする場面、よりよいマナーや行為について、自己の活動を振り返ることをしている。 | | 自己や仲間の技術的な課題やチームの作戦・戦術についての課題や課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えることをしている。 | |
| 学 | | | | | | 球技の学習成果を踏まえて、自己に合った「見る、支える、知る」などの運動を継続して楽しむための慣わり方を見つけている。 |

【特別支援学校第2学年の指導と評価の計画】



カリキュラム・マネジメントの視点に立った「指導と評価の計画の作成」

| 時間 | 1. | 2. | 3. | 4. | 5. | 6. | 時間 | 7. | 8. | 9. (本時) | 10. | 11. | 12. |
|------|----|-----|-----|-----|-------------|-----------|----|-----|-----|------------|-----|-----|-----|
| 指導内容 | 知 | A-1 | A-2 | A-2 | A-2 | A-2 | 知 | | | | | | |
| | 技 | | | | B-1 シュート | B-2 パス | 技 | | | | | | |
| | 思 | | | | | | 思 | C-2 | C-1 | C-2 | C-1 | | |
| | 態 | | D-1 | | | | 態 | | D-3 | | D-4 | D-2 | D-4 |

(2) 指導方法の工夫

○ 球技などにおける、児童生徒の姿に対する手立ての一体化表の作成及び活用

授業での児童生徒の評価を分かりやすく判断できるように、球技における児童生徒の評価において、A(十分満足)・B(おおむね満足)・C(努力を要する)の規準を検討し作成した(特別支援は校種に則した評価規準)。さらに、C(努力を要する)の状況の児童生徒への手立てを検討し、毎時間の授業の指導に生かせるようにした。その指導と評価が見て分かるように一体化表を作成した。

○ 小学校の一体化表の活用の工夫

研究部(県の研究グループ)で、ボール運動系の領域「ゴール型(ゲーム)」における一体化表を作成した。単元の評価規準(A、B、Cの状況)を明確にするとともに、Cの状況(努力を要する状況・運動が苦手等)の児童に対しての具体的な手立てを示し、指導の際に活用していく。

「ゴール型(ゲーム)」は、低学年の「ボールゲーム」や「鬼遊び」を基盤としている。中・高学年では、主にバスケットボールやサッカー、ラグビーなどを、主として取り扱っていくが、種目によって特性が異なる。そこで今回は、中学年の評価及び手立ての一体化表「ラグビー編」を別途作成し、より具体的にイメージしながら指導に生かすことができるようにした。

○ 中学校の一体化表の活用の工夫

地区研究部で作成した一体化表を、教師が指導の際に活用できるようにした。毎時間の授業でA・B・Cの評価の判断がしやすくなったことで、教師がその後の指導を組み立てやすくなるようにした。また、特にCの状況の生徒への手立てをいくつか考えて表として作成することによって、教師が指導しやすくなり、生徒の授業理解が深まるように生かした。

○ 高等学校の一体化表の活用の工夫

地区教科研究委員会で作成した一体化表を基に、授業を実施した。評価基準の目安が定まっているため、授業における評価判断がしやすかった。特にCの状況の生徒への声かけや指導もスムーズに行うことができ、有効性を感じた。Cの状況の生徒への手立ては、様々な手法があると考えられる。いくつかの例示を作成しておく、更に生徒の能力を育成する際に役立てることができるとは思わないか。更なる工夫が必要だと感じた。

○ 特別支援学校の一体化表の活用の工夫

作成した一体化表を、授業の中で教師が指導の際に活用できるようにした。生徒の実態が様々であるため、各段階に応じた手立てを分かりやすくすることで、言葉掛けや支援の仕方が具体的にできるようにした。また、各段階における目標の設定や評価の仕方を授業に関わる教師で共通理解することで、チームティーチングがより機能的になるように工夫した。

【小学校第3・4学年一体化表(タグラグビー)】(一部抜粋)

小学校体育科 評価規準表 ボール運動系 ～タグラグビー編～



【第3学年及び第4学年：ゲーム ゴール型ゲーム】

| 評価内容 | 「十分満足できる」状況 (A) | 「おおむね満足できる」状況 (B) | 「努力を要する」状況 (C) | Cの評価に対する手立て | |
|--|---|---|---|--|--|
| 知識 | ゲームの行い方を説明したり、友達に教えたりしている。 | ゲームの行い方について、言ったり書いたりしている。 | ゲームの行い方を理解していない。 | ・オリエンテーションの資料に絵や図を入れたり、視聴覚機器を活用したりして、行い方を視覚的に理解できるようにする。 | |
| 技能 | ボールを持った後、周囲の状況をよく確認し、空いているスペースを見付けて、ゴールに向かって前に進むことができる。 | ボールを持った後、ゴールに向かって走ることができる。 | ボールを持っていても、ディフェンスを避けるために、後ろに下がってしまっている。(障地をとられている状態) | ・タグを取られるまで前に、進むように言葉がけをしたり、規則を設けたりする。 ・ボールを保持している人の後ろに必ず一人がついていくようにし、安心して、プレイできるようにする。 | |
| | タグを取られる直前やタグを取られた直後に、味方にボールを手渡したり、パスを出したりすることができる。 | 味方にボールを手渡したり、パスを出したりすることができる。 | ・味方を確認せずに、受け取れないパス、または、受け取りにくいパスを出している。 | ・ボールを保持する条件や規則を易くする。 → ラグビーボールを扱いやすいボールに変える。 ・タグをとった相手やパスをしようとしている人に触れない。 ・円陣パスなどのパス練習に取り組みさせる。 ・ボールを保持した際に、周囲の状況が確認できるように言葉がけをする。 | |
| | 周囲の状況をよく確認し、空いているスペースを見付けて、ゴールにボールを持ち込むことができる。 | ゴールにボールを持ち込むことができる。 | ボールを保持した際に周囲の状況を確認せず、ディフェンスにぶつかったり、空いているスペースから遠ざかったりしている。 | ・パスを受ける前やボールを保持した際に、周囲の状況が確認できるように言葉がけをする。 | |
| ボール保持者の動きに合わせて、パスをもらいやすい場所(ボール保持者の後方や近い位置)に移動することができる。 | ボール保持者の動きに合わせて、後方についていくことができる。 | ・ボール保持者よりも前方を走っている。 ・パスをもらいにくい場所(ボール保持者から遠い位置)にいる。 | ・ディフェンスの位置を見るように言葉がけを工夫する。 ・ボール保持者の後ろを追いかけさせる。 ・常にボール保持者の背中や番号が見える位置に移動させる。 | | |

【中学校第1・2学年一体化表(バスケットボール)】(一部抜粋)

1・2年 評価基準表(ゴール型)

| | 【評価項目】十分満足 (A) | おおむね満足 (B) | 努力を要する (C) | Cに対する手立て |
|----|--|--|---|--|
| 知識 | ① 球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、伝え合ったり、書き出ししたりしている。 | ① 球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出ししたりしている。 | ① 球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、書き出ししたりしている。 | 過去の経験を振り返り、楽しさや喜びを味わった経験を思い出すように助言する。 仲間の意見を聞いて、共感できるものを参考にしながら書くように助言する。 |
| | ② 学校で行う球技は近代になって開発され、今日では、オリンピック・パラリンピック競技大会においても主要な競技として行われていることについて、伝え合ったり書き出ししたりしている。 | ② 学校で行う球技は近代になって開発され、今日では、オリンピック・パラリンピック競技大会においても主要な競技として行われていることについて、言ったり書き出ししたりしている。 | ② 学校で行う球技は近代になって開発され、今日では、オリンピック・パラリンピック競技大会においても主要な競技として行われていることについて、書き出ししている。 | 声をかけて書くように促す。 仲間の意見を聞いて共感できるものを参考にしながら書くように助言する。 |
| | ③ 球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を理解し、伝え合っている。 | ③ 球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 | ③ 球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントを理解している。 | 実技の教科書をもとに、技術の名称や身に付けるポイント等を確認させる。 |
| | ④ 対戦相手との競争において、技能の程度に応じた作戦や戦術を選ぶことが有効であることについて、学習した具体例を理解し、伝え合っている。 | ④ 対戦相手との競争において、技能の程度に応じた作戦や戦術を選ぶことが有効であることについて、学習した具体例を挙げている。 | ④ 対戦相手との競争において、技能の程度に応じた作戦や戦術を選ぶことが有効であることについて理解している。 | 実技の教科書をもとに、作戦や戦術等を確認させる。 |
| | ⑤ 球技は、それぞれの型や運動種目によって主として高まる体力要素が異なることについて、学習した具体例を理解し、伝え合っている。 | ⑤ 球技は、それぞれの型や運動種目によって主として高まる体力要素が異なることについて、学習した具体例を挙げている。 | ⑤ 球技は、それぞれの型や運動種目によって主として高まる体力要素が異なることについて理解している。 | 実技の教科書をもとに、各運動種目によって主として高まる体力要素が異なることを確認させる。 |

【高等学校第1学年一体化表(バスケットボール)】(一部抜粋)

| | 【評価項目】十分満足(A) | おおむね満足(B) | 努力を要する(C) | Cに対する手立て |
|---|---|--|---|--|
| 知識 | バスケットボールにおいて用いられる技術や戦術、作戦の名称や、それらを身に付けるためのポイントがあることを理解しており、話し合いの場面等で積極的に言ったり、書き出ししたりしている。 | ①バスケットボールにおいて用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることを言ったり、書き出ししたりしている。 | ①バスケットボールにおいて用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて言ったり、書き出したりできない。 | 技術や戦術・作戦の名称の表を提示し、話し合いの場面等で活用するよう促す。 |
| | 戦術や作戦に応じて、技能をゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであることを理解しており、話し合いの場面等で積極的に言ったり書き出ししたりしている。 | ②戦術や作戦に応じて、技能をゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであることを言ったり書き出ししたりしている。 | ②戦術や作戦に応じて、技能をゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであることを書き出ししたりしている。 | 攻防のポイントを視覚的に確認できるように提示し、話し合いの場面等で活用するよう促す。 |
| | ゲームに必要な技術と関連させた補助運動や部分練習を繰り返したり、継続して行ったりすることで、結果として体力を高めることができることについて具体例を挙げ、実践している。 | ③ゲームに必要な技術と関連させた補助運動や部分練習を繰り返したり、継続して行ったりすることで、結果として体力を高めることができることについて具体例を挙げている。 | ③ゲームに必要な技術と関連させた補助運動や部分練習を繰り返したり、継続して行ったりすることで、結果として体力を高めることができることを理解している。 | 補助運動や部分練習がどの体力要素を高めているか、視覚的に確認できるように提示し、理解できるよう促す。 |
| | 練習やゲーム中の技能を観察したり、分析したりするには、自己観察や他者観察などの方法があることを理解しており、話し合いの場面等で積極的に言ったり書き出ししたりしている。 | ④練習やゲーム中の技能を観察したり、分析したりするには、自己観察や他者観察などの方法があることを言ったり書き出ししたりしている。 | ④練習やゲーム中の技能を観察したり、分析したりするには、自己観察や他者観察などの方法があることを書き出ししたりしている。 | 自己観察表や他者観察の方法を提示し、分析したりする場面とうで活用するよう促す。 |
| ゴールの枠内にシュートを様々な距離やシュート方法を用いてコントロールすることができる。 | ①ゴールの枠内にシュートをコントロールすることができる。 | ①ゴールの枠内にシュートをコントロールすることがたまにできる。 | 狙う角度や場所をアドバイスする。シュートフォームのポイントを絞りアドバイスする。 | |

【特別支援学校一体化表(バスケットボール)】(一部抜粋)

評定規準と手立て表 知識 A-I

| | 各段階 | 評価 | 具体的手立て |
|------------------|--------------|--|--|
| 高等部 知識 A-I | 2段階 | ・球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、教師の例示をもとに言ったり書き出ししたりしている。 | ○ ICT機器を活用し、映像や写真で説明することで、様々な球技の種類があることに気付かせる。 ○ 球技は、基本的な技能の習得や仲間と連携し、力を合わせて競争する楽しさや喜びを味わうことができる運動だということを助言する。 |
| | 1段階 | ・球技には、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、選択肢から選び、言ったり書き出ししたりしている。 | ○ ICT機器を活用し、映像や写真で説明することで、様々な球技の種類があることに気付かせる。 ○ 球技は、基本的な技能の習得や仲間と連携し、力を合わせて競争する楽しさや喜びを味わうことができる運動だということを助言し、学習カードの中の選択肢から選ばせる。 |
| | 常時支援を必要とする生徒 | ・球技には、友達と力を合わせてゲームをしたり体を動かしたりする運動があることを知り、球技の楽しさや喜びに触れている。 | ○ ICT機器を活用し、様々な球技の種類を映像や写真で見せる。 ○ 意欲を高めるために、動きの模倣や教師の手本を多く取り入れる。 ○ 動機付けや内容、教材などを工夫する。 |

| | 各段階 | 評価 | 具体的手立て |
|------------------|--------------|--|--|
| 中学部 知識 A-I | 2段階 | ・球技には、集団対集団、個人対個人の攻防があることを知り、簡易的なゲームの中で、必要な技能を、自分一人で選択肢から選び、言ったり書き出ししたりしている。 | ○ ICT機器を活用し、様々な球技の種類を映像や写真で見せる。 ○ 簡易的なゲームの中で、必要な技能を選択肢から選ばせる。 ○ 全体の前で発表する場面やチームボードに選ばせる場面を設定する。 |
| | 1段階 | ・球技には、仲間との連携のために必要な基本的な技能の習得が大切であることを知り、自分一人で又は教師と一緒に選択肢から選んでいる。 | ○ ICT機器を活用し、様々な球技の種類を映像や写真で見せる。 ○ 練習や簡易的なゲームの中で、基本的な技能を選択肢から選ばせる。 ○ グループ内で発表する場面やチームボードに選ばせる場面を設定する。 |
| | 常時支援を必要とする生徒 | ・球技はボール等を使い、ゲームをしたり、体を動かしたりする運動であることを知っている。 | ○ ICT機器を活用し、様々な球技の種類を映像や写真で見せる。 ○ 練習や簡易的なゲームの中で、基本的な技能を選択肢から教師と一緒に選ばせる。 ○ 教師と一緒に発表する場面やチームボードに選ばせる場面を設定する。 |

| | 各段階 | 評価 | 具体的手立て |
|------------------|-----|---|---|
| 小学部 知識 A-I | 3段階 | ・球技には、友達と力を合わせて、ゲームをしたり体を動かしたりする運動があることを知り、球技の楽しさや喜びに触れている。 | ○ ICT機器を活用し、様々な球技の種類を映像や写真で見せる。 ○ 様々な体育の学習を通して、写真や映像を見ながら球技について助言する。 |
| | 2段階 | ・友達と一緒に、運動をすることは楽しいことだと知っている。 | ○ ICT機器を活用し、様々な球技の種類を映像や写真で見せる。 ○ 様々な体育の学習を通して、写真や映像を見ながら助言する。 |
| | 1段階 | ・友達や教師と一緒に、運動をすることは楽しいことだと知っている。 | ○ ICT機器を活用し、様々な球技の種類を映像や写真で見せる。 ○ 様々な体育の学習を通して、教師と一緒に写真や映像を見ながら共感する。 |